

各産業分野の地域の団体・事業者との 意見交換の概要

～目次～

【専門分野の成長戦略】

農業分野	1
林業分野	5
水産業分野	9
商工業分野	13
観光分野	17

【産業間の連携戦略】

地産地消・地産外商戦略の展開	20
移住促進による地域と経済の活性化	22
担い手の育成・確保	24
起業や新事業展開の促進	26
産学官連携による力強い産業の礎を築く	28

【農業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）		
		農業協同組合	複合経営拠点、集落営農組織、農業公社、 農業参入企業、畜産団体、生産者	計
物部川地域	R元.7.8	6	7	13
高幡地域	R元.7.10	5	8	13
仁淀川地域	R元.7.11	5	9	14
安芸地域	R元.7.12	4	11	15
嶺北地域	R元.7.16	2	10	12
幡多地域	R元.7.17	5	9	14
高知市・土佐市地域	R元.7.18	7	8	15
計		34	62	96

1 県産業振興計画の取り組みへの評価

(1) 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化

○前向きな取り組みにより成果につながっている。これからも続けていただきたい。

＜高知市・土佐市＞

○環境制御技術の導入により、増収につながっている。

＜物部川、高幡、幡多、高知市・土佐市＞

○生産額が伸びたことを評価をする。全体的には良い方向に向かっていると感じている。

＜高幡＞

○委託事業で専門指導員を配置してもらい、発芽や病害虫の試験研究により大変助かっている。

＜仁淀川＞

○優良系統である県選抜系統2号によって、きれいなユズが生産できるようになった。＜安芸＞

○中山間地域の生きがいで始まった土佐ジローは、評価と知名度が上がり産業として成立している。＜安芸＞

○畜舎や農機具の支援をいただいた。昨年度はアドバイザー制度を活用し、今年の売り上げは昨年度比3～4倍になった。＜物部川＞

○補助事業で孵卵器を導入し、生産が安定してきた。＜物部川＞

○レンタル畜舎の制度は大変助かっている。＜安芸、幡多＞

○土佐あかうしも増えた。正職員を4名雇用し、これから稼いでいける。＜嶺北＞

○お米の普及に関する支援を強化してほしい。＜高知市・土佐市＞

○企業や資本があり規模拡大を目指す農家はかなり前進して良いと思うが、家族経営が中心の地域の農家にとっては、一部しか恩恵を受けられていないのではないか。＜高知市・土佐市＞

(2) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築

○行政と集落活動センター等との連携により、いろんな提案が出てきたことで生産者に活気が出るなど、農家も喜んでいる。＜高知市・土佐市＞

○集落営農を進めるにあたり、共同利用機械の導入などの補助事業を活用することができた。

＜嶺北＞

○複合経営拠点事業を活用して機械の導入等が進んだ。＜嶺北＞

(3) 流通・販売の支援強化

○県版GAPの取り組みにより、異物混入の減少につながっている。＜高知市・土佐市＞

○「天空の郷」のブランド化の支援により、2度目の日本一になった。また、収入も上がった。
＜嶺北＞

○選果場等の関係施設の改修等を支援していただきありがたい。＜仁淀川＞

○県として県外への販売に力を入れてくれている。＜高幡＞

(4) 生産を支える担い手の確保・育成

○研修ハウスを建て、新規就農者を2年前から受け入れている。補助金も活用できて助かっている。＜高知市・土佐市＞

○生産部会の人が増え、収量も増えており、良い方に向かっている。＜高知市・土佐市＞

○就農支援資金を活用して若い人がどんどん農業に取り組んでいる。＜仁淀川＞

○産地提案書の取り組みにより、新規参入者が増えた。また、担い手育成センターでの研修は早期の経営安定につながっている。＜物部川＞

○畜産の後継者が確保できている。＜嶺北＞

○親元就農の補助事業について、より充実させてほしい。＜幡多＞

○産地提案書が作成されているが、あまり機能していない。＜高幡＞

(5) 地域に根ざした農業クラスターの形成

○次世代型ハウスの整備やクラスターの補助等を活用させていただいて非常に助かった。

＜仁淀川＞

2 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 生産力の向上と高付加価値化による産地の強化

○ハウス資材が高騰しており、中古ハウスの活用を含めた対策が必要。

＜物部川、高幡、安芸、嶺北、高知市・土佐市＞

○レンタルハウスの補助基準価格が低すぎるため、引き上げてもらいたい。＜高知市・土佐市＞

○露地農家を支援する施策がもっとあれば良い。＜仁淀川、幡多＞

○小規模な家族経営や高齢農家に光を当ててもらいたい。

＜仁淀川、安芸、幡多、高知市・土佐市＞

○施設や機械設備の補修や更新にも補助が受けられるようにしてほしい。

＜仁淀川、高知市・土佐市＞

○次の世代にも生姜を作っていってもらうために、作りやすさや病気に関する研究を県で進めてほしい。＜仁淀川＞

○「カイゼン」の取り組みを継続する動機付けが難しいので、良い取組事例を情報提供してほしい。＜仁淀川＞

○使い勝手の良い事業を組んでもらっている。恒久的に支援していただきたい。＜仁淀川＞

○ハウスのスペックや規模に応じて集積されたデータを積極的に提供してもらいたい。

＜仁淀川＞

○産地パワーアップ事業の恒久的な継続をお願いする。＜仁淀川、安芸＞

○環境制御技術を導入していない農家を含め、産地全体のレベルアップが必要。＜高幡＞

○スマート農業を取り入れて人手不足を解消していく必要がある。＜高幡＞

○シシトウの箱詰め機やイタダリの皮むき機等、省力化に向けて機械化に取り組む必要がある。

＜物部川、高幡、高知市・土佐市＞

○電気に注目した代替燃料の普及に取り組むべき。省エネは農家の所得向上に繋がる。産地パワーアップ事業ではヒートポンプ導入に対する補助は除湿と冷房に限られているので、加温も対象に加えていただきたい。＜高幡＞

○飼料米に取り組んでいるが効率が悪く黒字化が難しいので、支援をお願いしたい。＜高幡＞

- 稲作農家への支援が地域の活性化につながるのではないかと。〈物部川〉
- 農業参入希望者のために篤農家の技術をデータ化して活用することで、誰もが取り組みやすい農業にしてほしい。〈物部川〉
- 新規就農者が導入しやすい低コストハウスの取り組みをお願いする。〈幡多〉
- 園芸用ハウス整備事業は無くしてはならない事業なので、継続してほしい。〈安芸、幡多〉
- 畜産農家の規模拡大にあたり、堆肥の活用が課題になっている。
 - 〈高幡、幡多、高知市・土佐市〉
- 堆肥舎の老朽化に対する支援と、畜舎の移転にあたっての移転先候補用地の情報提供などをお願いする。〈高知市・土佐市〉
- 土佐ジローの雛の安定供給のために、安定的な種卵生産をお願いしたい。〈安芸〉
- 土佐あかうしや土佐和牛について、繁殖の担い手は増えてきたが、肥育農家は減少している。肥育農家の育成にも取り組んでほしい。〈安芸〉
- 子牛の価格が低下しているので枝肉価格の安定対策をお願いする。〈安芸〉

(2) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築

- 条件不利地において、スマート農業を上手く活用することで、生産意欲と品質の向上、農地の保全につながると思うので、継続して取り組んでほしい。〈高知市・土佐市〉
- 中山間地域では、1つの営農組織だけでは地域の農業を守っていけないので、県の指導をいただきたい。〈仁淀川〉
- 中山間地域の農地の受け皿として、複合経営拠点の拡充と機械導入への支援が必要。〈高幡〉
- 集落営農組織の収支が課題であり、組織化だけでなくフォローも必要。〈高幡〉
- 中山間地域でも使いやすい支援制度を望む。〈高幡〉

(3) 流通・販売の支援強化

- よさ恋美人の消費拡大に必要な予算を確保して取り組んでいただきたい。〈高知市・土佐市〉
- 農産物のコールドチェーンをどのように構築していくのか、ともに考えていきたい。
 - 〈高知市・土佐市〉
- 6次産業化の取り組みの継続と充実をいただきたい。〈安芸、嶺北、高知市・土佐市〉
- 集出荷場の整備、再編への支援をお願いする。〈物部川、高幡、安芸、嶺北〉
- 商談会の開催やバイヤーとのマッチングを積極的に行ってほしい。〈物部川、安芸〉
- 二のそぐりセンターにおける生産性の向上が、規模拡大の課題となっている。〈仁淀川〉
- 国内の米の消費量が減ってくるので、輸出に力を入れていただきたい。〈幡多〉
- 収穫の労力を分散するためにもユズの青玉の販路拡大が課題。〈安芸〉
- 受注業務を代行してくれるサポートセンターのようなところがあればありがたい。〈高幡〉

(4) 生産を支える担い手の確保・育成

- 農地を次世代に残すため、中間管理機構の農地集積の要件を国が緩和してでも取り組んでもらいたい。〈高知市・土佐市〉
- 外国人労働者の住居を農協で確保するのは難しいため、行政がリーダーシップを持って進めてほしい。〈高知市・土佐市〉
- 担い手や労働力（集出荷場等含め）の確保に向けた取り組みをお願いしたい。
 - 〈物部川、高幡、仁淀川、安芸、嶺北、高知市・土佐市〉
- 後継者の確保が厳しい状態で、特に出口となる農地の確保が非常に難しい。
 - 〈高知市・土佐市〉
- 労働力の確保対策として、他の産業との連携にも継続して取り組んでいきたい。
 - 〈高知市・土佐市〉
- リタイヤした方などが収益を上げながら荒廃農地を分割して保存し、担い手にバトンタッチを

していける施策も必要と考えている。〈高知市・土佐市〉

○条件不利地であっても、せめてトラックが入る作業道が付けば、農地も生産量も守っていけると思う。〈高知市・土佐市〉

○中山間地域のほ場整備が進んでおらず、ほ場整備をしても生産効率が悪い土地がある。このようなほ場に、少ない負担で機械が入る取り付け道などを整備する方法はないか。〈仁淀川〉

○新規就農時のハウス建築などに多額の費用を要するので、補助制度を含めていかに軌道に乗せるかが課題。〈高幡、仁淀川〉

○井戸の掘削に対する補助事業がほしい。〈物部川〉

○農道、水路の維持管理も厳しくなってきた。そのための基盤整備をできるだけ進めていきたいので、支援をお願いしたい。〈物部川〉

○水田の保全管理への支援をしてほしい。〈物部川〉

○研修制度を利用して安心して就農できるよう、農業次世代人材投資事業の継続を望む。

〈安芸〉

○農福連携は福祉関係も含め、個々の場面で細やかなサポートが必要。〈安芸〉

3 その他

○昨年の7月豪雨等の復旧支援は助かった。おかげで去年は経営も続けられた。

〈安芸、高知市・土佐市〉

○昨年の7月豪雨への迅速な対応に力強さを感じた。果樹の改植支援は被災農家にとって有効なので継続を望む。〈安芸〉

○鳥獣害対策の継続と十分な予算の確保をお願いしたい。〈安芸、幡多〉

【林業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）				計
		森林組合	川上 （素材生産）	川中・川下 （加工流通）	その他 （林産・JA）	
①安芸地域	R元.7.30	3	2	2	2	9
②中央東地域	R元.8.2	3	2	1	0	6
③嶺北地域	R元.7.31	4	4	2	1	11
④中央西地域	R元.7.25	2	5	1	1	9
⑤須崎地域	R元.7.25	4	1	4		9
⑥幡多地域	R元.8.1	7	1	3	1	12
計		23	15	13	6	56

1 地域の現状と課題の確認

（1）川上（増産・造林）

○皆伐しても山主の収入は少なく、植え付けに対しては100%補助されるものもあるが、管理費や下刈り経費については所有者負担が生じるため、再造林が進まない。〈嶺北〉

○山の価値が下がったため、森林所有者から事業体を買ってもらいたいとの話が最近多い。保安林は再造林を行う義務もあり、買入れは避けたい。〈安芸、中央西、須崎〉

○再造林や下刈りの労働環境が大きな問題。下刈りなどは作業が夏場であり、特に20代は2～3年で離職する者が出てくる。〈中央西〉

○森林所有者の山への関心が少なく相続登記も放置され、所有者も境界が分かっていないため、事業をする際の境界確定に手間が係っている。〈嶺北、中央西〉

○搬出用の道がないため、事業地はあっても搬出や皆伐につながらないケースがある。〈中央西、須崎〉

○若者の就業を促すためには、機械化も必要であるため、機械の導入を行い、定着率を上げていきたい。〈須崎、幡多〉

（2）川中（製材加工・バイオマス）

○木質バイオマスボイラーが耐用年数を迎えているが、現在の燃料価格では更新は難しい状況。〈安芸〉

（3）川下（流通・販売）

○山側の丸太が太くなっており、大径木を挽く機械を導入していく必要がある。〈嶺北〉

○木材の安定供給、安定価格の維持について、時期などで変動しない市場流通の確立がなければ製材は安定した経営はできない。リスクをどこが持ちサプライチェーンマネジメントを進めるかが課題。〈中央西〉

（4）担い手育成

○造林の植え付けや下刈り業務に対応する担い手が足りていない。搬出する作業員も造林を手伝っているため増産に支障もある。今後、皆伐が増えると再造林や下刈りに一層人手をとられる。〈嶺北〉

○製材は求人を出しているが新規で若い人材が来ない。また、森林組合の事務職員の確保も課題。〈中央東、須崎、幡多〉

○地元が協力して、教育委員会と連携して小中学生向けの林業教室を去年から実施している。〈須崎〉

- 就労にあたり困るのは住宅。住宅に対する支援（月2万円）もしている。様々な就労条件を整えることが必要。〈安芸〉
- 同じ作業を続けさせるとストレスが溜まるため、間伐や皆伐等、作業内容を時々入れ替えなければ辞めていく人が出る。〈中央西〉
- 新人のメンタル面のケアが必要。実家があれば良いが、一人暮らしの場合はフォローが重要。〈幡多〉

(5) その他（特用林産等）

- 椎茸については、ハウスやトラック等を含め1千万円程度の初期投資が必要であり、かなりの補助がなければ後継者は育たない。〈嶺北〉
- サカキ栽培について、担い手は不足してる。年120~150万円の収入が望めるため、再雇用の場として定年退職者を待つ状況。〈中央西〉
- 製炭について、原木の安定した仕入れが課題であり、原木の安定供給のため、和歌山県の施業を参考にウバメガシの択伐を行っている。また、大月町において、ウバメガシの苗木育成・植栽を進めていきたいと考えている。〈幡多〉

2 現在の県産業振興計画の評価

- バイオマス等、林業のエンドユーザーに対する消費の拡大が進み、生産の拡大へとつながっている。〈中央東〉
- 高性能林業機械等の導入支援等により、原木の増産は大幅に増加したと思う。〈幡多〉
- 大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働により、地産の強化は一定の成果が出ている。〈中央東、嶺北、中央西〉
- 補助金等を活用した設備増強により、弊社の丸太処理能力は10年前に比べ20%程度アップしている。今後も手を緩めることなく支援していただきたい。〈須崎〉
- 各分野において、生産量・出荷量の拡大により基礎体力は付いてきたが、現実には、利益の確保が厳しい状況。出口対策や担い手対策等、さらなる体制の強化と充実に努めてほしい。〈安芸〉
- 産業振興計画は、掘り起こしとして非常に効果があった。出口等の振興も手厚い計画がなされていた。〈嶺北〉
- 原木生産量が増加し、CLTやバイオマス等の活用も一定構築されてきたことについては評価できる。〈須崎〉

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 川上（増産・造林）

- 再造林に対しては100%補助されるものの、手数料や消費税などの所有者負担があり、取り組みが進まない。下刈りも100%補助がないと進まないため、環境税などの活用により支援をお願いしたい。〈須崎、幡多〉
- スギ・ヒノキに代わり、コウヨウザンの植林を進めてはどうか。〈中央西〉
- 木材の需要は増えているが、バルブやバイオマス向けが多くA材の需要が少ないため、木材の搬出経費が厳しい。間伐は補助もあるため事業が進んでいるが、皆伐は難しいため支援が欲しい。〈安芸〉
- ポット苗は重いため、軽い苗木づくりができないか。〈中央西〉
- 架線を張り集材できる人材が高齢化により今後退職し、道路から離れた箇所の集材が出来なくなる恐れがあり、支援していく必要があるのではないか。〈中央東〉
- 作業道より高規格な林道等整備をお願いしたい。道が付けば安定的な原木の供給に繋がると考

えている。〈嶺北〉

○町道等が狭く運搬に制約がある現場がある。林道は施策で進んでいるが、途中の市町村道の拡幅が難しい場合は、林道を延ばし、山の反対に繋ぐなどの支援を進めてもらいたい。〈嶺北〉

○道の開設後の管理が問題。維持修繕の費用が重荷であり、市町村に管理をしていただけるとありがたい。〈中央東、須崎〉

○製炭用の原料がないのであれば、伐採後の山にウバメガシの植栽を検討してはどうか。

〈中央東〉

○仕事の効率化を進めていく上で、デジタルデータでの国土調査の地図情報や森林所有者情報を提供いただきたい。〈中央東、中央西〉

○今後、オリンピックもあり、認証材の見直しもある。産業振興計画の中で、市町村を巻き込んで国際認証に取り組んでもらいたい。〈安芸〉

(2) 川中（製材加工・バイオマス）

○CLTを進めているが、ラミナは県内生産であるが加工は県外となっており、県内で加工できるようにすべき。〈安芸〉

○バイオマス発電施設などを小規模で安く設置し、地産地消を進めてく仕掛けがほしい。

〈中央西〉

○民有林は大径化しているが、38cm以上を挽ける工場が少ないため、対応が必要。〈須崎〉

○県西部において、木材需要の拡大が見込まれる非住宅木造建築分野や、高品質な製材を供給していく施設が必要ではないか。〈幡多〉

(3)（流通・販売）

○県内の梁桁は、集成材等が多く使われている。施主や工務店における県産材の活用は、漠然と家を建てる時に使いたいという状況。施主に加えて工務店への支援ができないか。〈安芸〉

○大手ハウスメーカーや商社と産地が結びつくことができれば、インプット、アウトプットができる。しっかりとした供給協定が結ばれることが大事。〈中央西〉

○A材の価値を上げなければ、山にも製材にも利益は還らない。〈嶺北、中央西、幡多〉

○土佐材流通促進協議会を活用して、県外の外商が伸びている。今後、商談会の後追い営業などの経費がかかるので、補助支援などをつくって頂きたい。〈須崎〉

(4) 担い手育成

○賃金を上げなければ危険な林業に来てくれない。賃金の上昇とコスト縮減を進めていく必要がある。〈嶺北〉

○経済団体の中では、大学と連携し高知の中小企業を知る取り組みを進めており、高校生に広げている。もう一步踏み込み、小中学校まで教育分野の連携をして親子に知ってもらうような取り組みをしてもらいたい。〈安芸〉

○林大卒業生の林業技術に関するアドバンテージは未経験者と比較して3ヶ月程度しかないので、現地実習を進めてもらいたい。〈中央東〉

○間伐や下刈りなどを習得し独り立ちするには時間が必要となるため、緑の雇用事業の育成の期間の延長をお願いしたい。〈中央西、須崎〉

○ベトナムから実習生4名に来てもらっているが、1年しか雇用できないため、法整備のプッシュをお願いしたい。〈須崎〉

○外国人労働力は山の作業には入ってきていない。いつでも入れる体制を作っていく必要がある。〈中央東〉

○事業体の経営基盤がしっかりしていないと、雇用が難しく森林整備もできない。例えば、環境税等を活用した事業体強化のような支援はできないか。〈須崎〉

(5) その他（特用林産等）

- 地域おこし協力隊が大阪から2人来て支援したが辞めた。教え方も悪かったと思うが、育成への支援体制も必要。〈嶺北〉

4 その他

- 働き方改革（令和3年から中小企業が対象）に対する林業分野の対応としての、県の考え方（解釈）を示してもらいたい。〈中央東〉
- 補助金なしで事業を実施した際は、利益を出すために工夫することで、伐採技術や造材技術が向上した。今後は、それぞれが技術を上げて行くことが必要。〈幡多〉
- 特用林産の後継者を育てるためには、初期投資が多額となるので、かなりの支援が必要。〈中央西〉

【水産業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）				
		漁業者	漁協	加工・流通	その他	計
①室戸地域	R元.7.8	4		2		6
②中央地域（養殖業）	R元.7.3	3	1	1	3	8
③中央地域（漁船漁業）	R元.7.17	4	6	4		14
④幡東地域	R元.7.9	6		1	2	9
⑤土佐清水地域	R元.7.23	7		3		10
⑥宿毛地域	R元.7.5	7	1	3	2	13
計		31	8	14	7	60

1 地域の現状と課題の確認

（1）漁業生産の構造改革

- キンメダイ釣り漁業者数はサンゴ漁業への転換により減少しているが、将来的にサンゴ漁業が規制されることになればキンメダイ釣り漁業に漁業者が戻ってくるのではないかと。〈室戸〉
- 野見湾では、養殖業者の減少により、昔と比べると養殖魚の病気や酸素不足が改善された。〈中央（養殖業）〉
- 養殖業の一番の課題は餌が高いことであるが、ブリ養殖においては国内市場の縮小により海外への販路拡大が必要。〈中央（養殖業）〉
- まき網で漁獲されるマグロが養殖用種苗として使用可能となったため、人工種苗の需要が低迷している。〈中央（養殖業）〉
- カンパチの人工種苗は、品質面で天然魚と比べて劣る部分があり、結果として養殖業者にとって採算性が低いことが課題。〈中央（養殖業）〉
- バッチ網漁業では、生産から加工・流通販売まで一貫した経営等が理想と考える。〈中央（漁船漁業）〉
- メジカの資源量が減少しているように感じている。また、漁場もこれまでにないほど沖に形成されている。さらに、魚影がみえても釣れない場合が多くなった。〈土佐清水〉

（2）担い手の育成・確保

- 定置網漁業における人材確保にはいち早く取り組んでおり、定置網漁業や室戸の魅力の情報発信に取り組んでいる。〈室戸〉
- バッチ網漁業は定置網やカツオ、マグロ漁業と比べて人材確保が難しい状況で、バッチ網漁業の魅力をメディア等で十分に情報発信できていないことが要因。〈中央（漁船漁業）〉
- 中型まき網漁業では、外国人技能実習制度を活用しているが、実習生の住居の確保や漁協の事務量が多いことが課題となっている。〈宿毛〉

（3）市場対応力のある産地加工体制の確立

- タンクや製氷施設など、市場のインフラが（定置網の）大漁時に対応できていないように感じる。〈室戸〉
- 高知県のバッチ網漁業者は、シラスの鮮度管理に対する意識が低い。〈中央（漁船漁業）〉
- 宗田節加工業者にとっては原魚であるメジカの確保が一番の課題であり、現在は、漁が少ないことに加え、原魚の品質が悪くなっているように感じる。〈土佐清水〉

（4）流通・販売の強化

- 定置網の魚のブランド化と室戸に魚を食べに来ていただく仕組みづくりが必要。〈室戸〉

- 定置網にマグロが大量に入網した場合、その出荷先である県外の消費地市場からはマグロの身が焼けているというクレームがあるため、定置網漁業の船でマグロ低温処理できる魚倉が必要。
＜室戸＞
- 定置網は時期によって漁がある時と無い時があるため、パートやトラック運転手の確保が困難な状況にある。＜室戸＞
- 直七真鯛の販売は右肩上がりで推移しているが、生産が追いついていない状況。＜宿毛＞

2 現在の県産業振興計画の評価

(1) 漁業生産の構造改革

- 定置網漁業における未利用漁場は、不漁や流通面の問題から廃業に至ったと考えられることから、企業を誘致することは難しいのではないかと。また、企業誘致を進めるより高齢者の漁場として活用すべきではないか。＜室戸＞
- キンメダイ漁におけるイルカ被害対策として、イルカ忌避装置をリースして対策に取り組んでおり、一定の効果がみられている状況。＜室戸＞
- 養殖業への企業参入は、地元漁業者（後継者）が規模拡大を望んだ時に漁場が足りなくなる心配がある。＜中央（養殖業）＞
- カツオ活餌の取組はよく計画したと評価している。頑張っ取り組んでいただきたい。
＜中央（養殖業）＞
- 人工種苗生産の取組には感謝している。しっかりテコ入れして取り組んでいただきたい。
＜中央（養殖業）＞
- ブリとカンパチの人工種苗生産には反対。人工種苗生産により種苗が安定的に供給されると種苗の単価が下がり、モジャコ漁業者の廃業に繋がりがかねない。＜中央（漁船漁業）＞
- 本県漁業の将来を考えると、大型定置網漁業への参入は不可欠と考えている。＜幡東＞
- 未利用漁場への企業参入によって、既存定置網の従業員が企業の定置網に移籍してしまうことを心配しており、人手不足が深刻な既存定置網への支援をお願いしたい。＜土佐清水＞
- 幡多地域の定置網は、火光利用まき網による活餌採捕試験には反対。＜土佐清水＞

(2) 担い手の育成・確保

- 漁業就業支援センターが設置されたことで窓口が一本化され、就業相談がスムーズに進むことを期待している。＜室戸＞
- キンメダイ漁では、研修制度により新規就業者が順調に操業しているが、研修生を指導する漁業者が足りないことが課題となっている。＜室戸＞
- 担い手対策は現場の漁業者の意見を聞き、連携して進めていく必要がある。＜土佐清水＞
- これまでは相談窓口が一元化されていなかったため、長期研修終了後のフォローが不十分と感じていた。＜土佐清水＞
- リース事業の事務処理や船の名義変更等により船の取得までに時間を要するため、長期研修終了から就業までの期間が空いてしまうことが課題となっている。＜土佐清水＞

(4) 流通・販売の強化

- 小規模事業者への支援は大切と考えるが、売上規模が大きい事業者への支援もお願いしたい。
＜室戸＞
- 神経締めや血抜き等の高鮮度処理に取り組んでいるが、必ずしも産地市場の価格に反映されるとは限らないため、高鮮度処理を行った魚のブランド化に取り組む必要がある。＜宿毛＞

(5) 交流人口の拡大

- 近場で操業できる漁法に転換したことで経費の削減に繋がった。＜中央（漁船漁業）＞
- 投石事業を実施したいが地元負担が必要であるため、実施が困難な状況。

<中央（漁船漁業）>

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 漁業生産の構造改革

- 養殖の生産尾数を増やせるよう漁場の拡大をお願いしたい。<中央（養殖業）>
- 野見湾における白点虫対策をお願いしたい。<中央（養殖業）>
- 中央地域においても、まき網によるカツオ活餌の採捕に取り組むべきである。
<中央（養殖業）>
- マイクロプラスチックへの対応等、海洋環境に配慮した取り組みをお願いしたい。
<中央（養殖業）>
- 人工種苗生産の取組は継続をお願いしたい。<中央（養殖業）>
- 中央地域の沿岸域で大規模な魚礁整備事業を実施すべきである。<中央（漁船漁業）>
- バッチ網漁業における漁場の沖だしなど、支援をお願いしたい。<中央（漁船漁業）>
- 定置網漁業はまき網漁業と比べると資源に優しい漁業であることから、好条件の補助をお願いしたい。<中央（漁船漁業）>
- カツオ一本釣り漁業における中長期的な運転資金への支援をお願いしたい。
<中央（漁船漁業）>
- カツオ一本釣り漁業は燃料の高騰や餌の確保、新船の建造など、様々な課題を抱えている。県には、単なる補助事業の創設ではなく、漁業の諸かるビジョンやノウハウを指導いただきたい。
<中央（漁船漁業）>
- 漁業という大きい単位ではなく、漁村や漁業種類といった小さい単位で取組を検討していく必要がある。<中央（漁船漁業）>
- 将来、漁業者数が大幅に減少したとしても、今の漁業をどのように維持するか考える必要がある。<中央（漁船漁業）>
- 黒潮牧場の高機能化が実現することを期待している。<幡東>
- 大型定置網で漁獲されたイワシ類をカツオの活餌として蓄養してはどうか。<幡東>
- 黒潮牧場とカツオの活餌はセットで取り組む必要がある。<幡東>
- 地域性のある取組が必要と考える。<土佐清水>
- メジカ漁業者にとっては黒潮牧場 13 号の海況情報が最も重要であることから、壊れにくく、壊れてもすぐに修理ができる黒潮牧場の整備をお願いしたい。<土佐清水>
- 急潮対策として県東部（高岡）に設置しているリアルタイムブイを県西部にも設置してほしい。
<土佐清水>
- 近年、赤潮の発生が頻発しているため、赤潮対策と迅速な情報提供をお願いしたい。<宿毛>
- 黒潮牧場の 15 基体制は必ず維持するとともに、黒潮牧場 21 号においても海況情報の提供をお願いしたい。<宿毛>

(2) 担い手の育成・確保

- 担い手の確保対策は他県との競争に打ち勝つよう取組をお願いしたい。<中央（養殖業）>
- バッチ網漁業における人材確保のため、情報発信への協力を望む。<中央（漁船漁業）>
- 外国人労働者の受け入れに必要である住居の整備について支援をお願いしたい。<幡東>
- 東京や大阪で開催される漁業就業フェアへの出展に係る費用について支援をお願いしたい。
<幡多>

(4) 流通・販売の強化

- ブリ養殖においては国内市場の縮小により海外への販路拡大が必要であることから、引き続き、養殖魚の輸出振興に取り組んでいただきたい。<中央（養殖業）>

- 作業の効率化や鮮度保持のために土佐清水魚市場でも下ノ加江のようにメジカをコンテナごと計量できるようにしていただきたい。〈土佐清水〉
- 市場集約によって市場が寂れていくことを危惧している。集約後も引き続き施設整備等への支援をお願いしたい。〈土佐清水〉

4 その他

(1) 漁業生産の構造改革

- 漁協の情報伝達に問題があるためか、漁業者まで情報が届いていないように感じているため、情報提供をお願いしたい。〈中央（養殖業）〉
- モジャコをカツオ一本釣りの餌として使用することはできないか。〈中央（漁船漁業）〉
- バッチ網漁業において新たに1か統操業を予定しているため支援をお願いしたい。
〈中央（漁船漁業）〉

(2) 担い手の育成・確保

- 外国人労働者の確保については国の動向等、情報提供をお願いしたい。〈中央（養殖業）〉
- 二人で操業する漁業の場合、漁業種類に関わらず、人材を融通し合うことで漁業の継続が可能になる。〈中央（漁船漁業）〉
- 定置網漁業における新規就業者の確保では住居情報が重要であることから、市町村の協力が不可欠と考える。〈幡東〉

(3) 市場対応力のある産地加工体制の確立

- アカムツの出荷に必要となる製氷機の整備について支援をお願いしたい。〈幡東〉

(4) 流通・販売の強化

- 系列の飲食店での宿毛フェアを行っており、県や市には更なる支援をお願いしたい。〈宿毛〉

【商工業分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等（参加人数）		
		団体	市町村等	計
（一社）高知県工業会	R元.7.18	23		23
高知県中小企業家同友会	R元.7.29	7		7
（一社）高知県情報産業協会	R元.7.10	7		7
高知県IoT推進ラボ研究会	R元.7.25	14		14
IT・コンテンツビジネス起業研究会	R元.7.19	10		10
（一社）高知県製紙工業会	R元.7.12	6		6
高知県・高知市商店街振興組合連合会	R元.7.30	17	1	18
高知県商店街振興組合連合会（幡多地域）	R元.8.5	16		16
高知県中小企業団体中央会・青年中央会	R元.7.30	8		8
商工会・商工会議所（幡多ブロック）	R元.6.14	18		18
商工会・商工会議所（高幡ブロック）	R元.6.19	12		12
商工会・商工会議所（安芸ブロック）	R元.6.19	10		10
商工会・商工会議所（仁淀川ブロック）	R元.6.25	11		11
商工会・商工会議所（嶺北・物部ブロック）	R元.6.26	12		12
商工会・商工会議所（高知ブロック）	R元.7.30	10		10
計		181	1	182

1 地域の現状と課題の確認

（1）人材の育成・確保

○人手不足、後継者不足が深刻化しており、人材の確保・育成が大きな課題。

＜製紙工業会、中小企業団体中央会・青年中央会、商工会・商工会議所 他＞

○一番の課題は、人材・マンパワーが地域では足りないこと。産業によっては賃金を上げられない事情があったり、仮に上げたとしても人がいないという状況。高齢化が進んでいるが、高齢者だけでは限られた仕事しかできないので、若者から高齢者までのバランスが重要。

＜中小企業家同友会＞

○当社では約17年で海外の研修生を約100名卒業させた。最近では中国は売り手市場でレベルが落ちているというのが現状であり、ミャンマーで学校を開くことにした。高校生を約200名、大学生を約100名入れて、1年間日本の教育をして、来日させる計画を進めている。

＜工業会＞

（2）地産の強化・外商の強化

○高知の場合は単品物が多く、手間のかかるものが多いので、大量生産の場合と生産性を単純に比較することはできない。時間外の規制等の法律を守りながら新たな受注等に対応していくことには苦しい面がある。＜工業会＞

○原材料や人件費などのコストが上昇しているため、営業利益が減少。製紙工業は大手も利益を上げられていない厳しい業界。運転手の不足等により輸送コストも上がっているうえ、高知県は他県と比較して運賃が高いことが問題。＜製紙工業会＞

（3）地域商業の活性化

○商店街では、特に物販関係はネット販売等の影響があり厳しい状況。また、店主の高齢化等に

伴う、事業承継が大きな問題。人手不足のため従業員の確保も難しい状況。〈県・市商店街振興組合連合会〉

- キャスレス対応は、手厚くセミナーもあるが参加者が少ない。ポイント還元の話もしているが、十分には理解してもらえていない。高齢の店主が対応できていなかったり、手数料の問題などで、まだまだ浸透していない。〈県・市商店街振興組合連合会〉

（4）高知版 Society5.0 の実現

- 若手 10 名ほどで IoT のワーキングを発足し、早速県からもお話をいただいております、県の動きが早くて感謝をしている。先進的な取り組みも進めていきたいという企業もたくさんあると思うので、よろしくお願ひしたい。〈工業会〉
- IT 化を進めるにあたっては、IT 人材が少ないということもあるが、IT を導入する側の企業が自社の業務に忙しいなどの理由で社内の体制が築けず、新しいことに手を出せないという状況も多い。〈IT・コンテンツビジネス起業研究会〉

2 現在の県産業振興計画の評価

（1）県経済への寄与

- 産業振興計画が策定されて 10 年が経ち、製造品出荷額、有効求人倍率等各指標も向上し、10 年前と比べて高知県経済の活性化に寄与していると思う。地域アクションプランの策定もいくつかあり、勢いが良い部分もあるが、一方で、現実には課題が山積している事業者もいるので、商工会としての支援もより必要になってくると思う。

〈商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉

- 企業立地の補助金については、手厚い支援をいただき感謝している。しかし、有効求人倍率が上昇している状況下において、雇用の要件については従業員の待遇改善を含めた成果で評価をするなど、検討をお願いしたい。〈工業会〉

- 地域支援企画員の配置によって、県との連携が密にとれるようになった。観光のクラスターも形成されつつあり、地域の状況は良くなってきている。

〈商工会・商工会議所（仁淀川ブロック）〉

（2）人材の育成・確保

- 地元就職に関する取り組みを充実していただいているのは非常にありがたいが、工業高校の県内企業への就職割合はほぼ変わっていない。大手企業が前年から働きかけをしていることもあって難しいと思うが、例えば、工業高校に限らず普通科でもインターンシップを充実することも考えていく必要があると思う。〈工業会〉

（3）地産の強化・外商の強化

- 最近、食品分野で外商を考える事業者が増えてきた。高知県版 HACCP の影響も大きいと思う。地産・外商に関して、県の施策で「安心安全」のイメージが付加されて、バイヤーへの流れができており、商工会議所としても伴走支援をしやすい。

〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉

- 地産外商の促進の取り組みは、販路開拓を求めている小規模事業者にとって効果が表れてきている。地産外商を進める事業者が増え、他の事業者の活力になっている。一方、人口減少とともに域内の需要が減少し、供給過多になっている事業者もいるので、需要のある都市部とのマッチングができるような施策があれば良いと思う。〈商工会・商工会議所（幡多ブロック）〉

- 産業振興計画が商工業者の刺激となり、地域のブランド化や地域資源の発掘、地域資源を活用した商品開発は一段と進んだと思う。しかし、地域の事業者の生産体制は、大きなマーケットに打って出るには脆弱で、資金面でも課題がある。流通コストを考えると、今後は地域に来て買っていただく取り組みも必要だと思う。〈商工会・商工会議所（高幡ブロック）〉

○地域の商工業者で県外への販路拡大を目指す者にとっては、支援施策及び支援機関充実により大きく追い風になったと考える。〈商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉

（4）地域商業の活性化

○チャレンジショップや空き店舗対策の事業は、継続性に課題はあるものの移住者による創業がみられるなど、一定の成果をあげている。

〈商店街振興組合連合会（幡多ブロック）、商工会・商工会議所（嶺北・物部川ブロック）〉

○産業振興計画の第2期目頃から、産業振興計画に商店街活性化の文字が頻繁に出始めた。商店街が必要という県の姿勢の表れだと思っている。高知市中心商店街以外の地域の商店街も、町の中心であり必要なので、商工会・商工会議所と一緒に県もバックアップをお願いしたい。

〈県・市商店街振興組合連合会〉

（5）高知版 Society5.0 の実現

○IoT の製品開発については、ニーズ側の課題に合わせた製品化は自社で作りたい物を作るのと異なりコスト高になったり、社内で反対意見が出てくる可能性もあるので、マッチングをうまくすることが必要。市場があるかどうかなどの背景の調査に時間がかかるため、県からも情報をいただきたい。〈情報産業協会〉

○IoT 推進ラボ研究会の取り組みを3年間やってきて成果があったと考えている。ただし、課題解決のための製品ができた後の製品のブラッシュアップが重要である。

〈IoT 推進ラボ研究会〉

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

（1）人材の育成・確保

○間違いなく人口減少、高齢化は進んでいくため、Uターンや外国人の雇用も必要となる。色々な手を打っていかねばいけないので、県も積極的にやっていただきたい。高知県に縁のあるなしに関わらず高知で働く流れを作ってもらいたい。〈製紙工業会〉

○人生100年時代に向けて、長年培ってきた技術・技能を持った高齢者を活用することで生産能力が上がるのではと思う。そういう方面に力を入れることも良いのではないか。〈工業会〉

○高校生ぐらいから就職に関するキャリアパスの考え方が必要。若い世代から色々な仕事を見せるなど、早くからきっかけづくりの教育が必要ではと思う。

〈IT・コンテンツビジネス起業研究会〉

（2）地産の強化・外商の強化

○人口減少にどう対応するかが課題であると考えている。東京のマーケットも飽和しつつあるため、海外展開に向けてどうするか考えていく必要がある。

〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉

○農業分野での6次産業化が加速化しているので、それに対する支援があれば良いと思う。

〈商工会・商工会議所（安芸ブロック、高幡ブロック、仁淀川ブロック）〉

（3）地域商業の活性化

○大型客船来港による経済効果は、“消費のゴールデンルート”と呼ばれる高知市内の商店街や観光地に限られており、地方の小規模事業者はその恩恵を受けているとは言いがたい。地方の商店街や観光地にも恩恵が得られるように、県と商工会・商工会議所が協力しながら受け入れ体制を作ることが必要。〈商工会・商工会議所（高知ブロック）〉

（4）事業承継

○できることをやっていくということが一番重要で、地域のコンテンツを掘り起こすことができればもっと面白いのではと思う。例えば、昔からあるお菓子を若い女性に渡したら美味しいし、可愛いという反応があったが、店主はもういよいよ辞めるという雰囲気が出てきており、なく

なってしまうのはもったいない。〈中小企業家同友会〉

(5) 高知版 Society5.0 の実現

OIoT に関しては、ものづくり系企業と IT 企業が、お互いを学ぶというような方法を取らないとシナジーは生まれません。業種による文化・用語の違いが障壁となり、その業界の常識が分からないため、双方が理解できるような取り組みが必要。〈情報産業協会〉

【観光分野】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）			
		広域 観光組織	市町村 観光協会	その他 団体等	計
①安芸地域	R元.7.18	1	2	2	5
②物部川地域、高知市地域	R元.7.30	1	3		4
③嶺北地域	R元.7.10	1	3		4
④仁淀川地域	R元.7.2	1	5		6
⑤高幡地域	R元.7.8	2	3	1	6
⑥幡多地域	R元.6.25	2	2	1	5
⑦KVCA 賛助会員	R元.7.24			16	16
⑧土佐経済同友会 観光振興委員会	R元.7.24			14	14
⑨高知県旅館ホテル生活衛生同業組合	R元.7.30			6	6
⑩高知県おもてなし県民会議	R元.8.7	2	1	23	26
計		10	19	63	92

1 地域の現状と課題の確認

(1) 戦略的な観光地づくり

○広域周遊ルートを形成したいが旅行商品化の目利きができない。〈高幡、幡多〉

○二次交通の整備が十分でなく観光地へのアクセスが不便。

〈安芸、嶺北、仁淀川、KVCA会員、同友会、県民会議〉

○道路管理者との関係はあるが、道路の幅員や支障木によりバスの乗入れが難しいなど、観光客の受入環境整備が必要。〈仁淀川、高幡、幡多、旅ホ組合〉

○閑散期にサイクリングを推進したいが、道路の舗装や幅員、休憩所の整備と、自動車運転手や歩行者の理解などハード・ソフト両面で課題にある。〈安芸、嶺北〉

(2) OMOTENASHI（おもてなし）の推進

○多言語対応、トイレの洋式化、無線LAN、案内標識、キャッシュレス化といったストレスフリーな環境整備が遅れている。〈物部川、高知市、仁淀川、嶺北、幡多〉

○宿泊施設が不足しており、宿泊の要望に応えられない。〈仁淀川〉

○宿泊施設のバリアフリー化は、客室数が減り収容人数も減る危惧もある。〈KVCA会員〉

(3) 国際観光の推進

○インバウンド向けの情報発信や観光案内は、市町村単独で取り組む（コンテンツや経費）ことが難しい。〈嶺北、高幡、幡多〉

○OHPの多言語化の必要性は感じるが事業者の自前で翻訳や改修することは難しい。〈高幡〉

○国別の効果的なPR方法が分からない。〈高幡〉

○観光客が魅力を感じる観光地でも交通手段が分からず、諦めるケースがある。〈同友会〉

(4) 事業者の強化と観光人材の育成

○観光事業の継続や新たなアイデアがあっても、地域には実行できる人材がいない。

〈嶺北、仁淀川、高幡、幡多、KVCA会員、同友会〉

○観光事業者や団体も人材不足が課題。〈高幡、同友会、KVCA会員〉

○県観光コンベンション協会も早急にDMO化し、国が提供する情報や有利な財政支援を地域に供給する役割を担って欲しい。〈仁淀川、幡多〉

○市町村には、観光専任の職員がおらず、多様な国の支援策を活用できる機会を失っている可能

性もあり、アドバイスをもらいたい。〈仁淀川〉

- 事故が起きると県の自然・体験型観光のイメージダウンに繋がるため、リスクマネジメントに取り組む必要がある。〈安芸〉

(5) その他

- 商店街は物販が厳しく地元ならではの名物や目玉商品の開発が必要。〈KVCA会員、県民会議〉

2 現在の県産業振興計画の評価

(1) 戦略的な観光地づくり

- 観光クラスターの形成により、地域の観光地化が進んだと感じる。〈仁淀川〉
- 自然&体験キャンペーンで整備した体験施設を契機に新たな観光客を獲得できた。〈安芸〉
- 地域の現状を踏まえた的確なアドバイスと事業実施にも協力的で事業者のやる気が引き出された。〈仁淀川〉
- 様々な取組により、県内の観光スポットや観光商品が増えた。〈嶺北、同友会〉
- 「維新博」や「れいほく博」の開催、拠点施設の整備が進み観光客の増加を実感。〈嶺北〉

(2) 効果的なプロモーション

- 「幕末維新博」を通じて、歴史・文化施設の入館者が増加し、有り難い。〈KVCA会員〉
- 高知県観光のブランディングが進み、旅行商品化を通じた旅行業界での露出も高まり、誘客につながっている。〈旅ホ組合〉

(3) OMOTENASHI（おもてなし）の推進

- 通訳コールセンターは外国人観光客の案内に心強い施策であり継続して欲しい。〈高幡〉
- Wi-Fi環境の整備は一定進んだが、全域で見るとまだ不十分。〈同友会〉

(4) 国際観光の推進

- クルーズ客船のOPツアーの催行により、観光客が地域に周遊している。〈KVCA会員〉
- ジェットスターの就航以降、総合案内所の外国人対応が多くなり、他の案内所の対応方法を共有して欲しい。〈KVCA会員〉
- 中山間地域にもアジアを含め、FITが足を運んでいる。〈幡多〉

(5) 事業体の強化と観光人材の育成

- 常日頃、地域支援企画員が事業者に声を掛け一緒に考えてくれている。〈KVCA会員〉

(6) その他

- 県外観光客の入込や観光総消費額の増加など、一定の効果を感じる。〈同友会〉

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 戦略的な観光地づくり

- 一人当たりの観光消費額を上げる「食」に関する施策の展開。〈同友会〉
- ストレスフリーな観光地づくりに向けて、AI等を活用した交通ニーズの把握や二次交通の連絡交通システムの構築、さらなる二次交通の整備。〈安芸、同友会、県民会議〉
- 高知で展開しやすいスポーツツーリズムの推進。〈KVCA会員、同友会〉
- 着地型商品を結んだコースを作り、情報を発信する取組の支援。〈幡多〉
- クラスター化のさらなる推進。〈同友会〉

(2) 効果的なプロモーション

- リスクマネジメント、観光商品を高付加価値化するブランディングなどのPR。
〈安芸、同友会、旅ホ組合〉
- デジタルマーケティングを積極的に取り入れた観光プロモーションの実施。〈KVCA会員〉
- 世界に四国が発信できるお遍路を観光資源としての活用。〈安芸、高知市〉

○地域の観光関係団体等が観光商品を県内の旅行会社にアピールできる機会の設定。〈KVCA会員〉

(3) OMOTENASHI（おもてなし）の推進

○おもてなしタクシーがあることを広く知らせる取組。〈KVCA会員〉

○観光客が地域をあげて歓迎されたと感じる雰囲気醸成。〈安芸、同友会、県民会議〉

○モバイル端末での観光案内機能の強化。〈県民会議〉

(4) 国際観光の推進

○高知を訪れた外国人観光客の属性や理由を分析した尖ったプロモーションの実施。〈同友会〉

○宿泊や観光施設の情報を基に旅行計画をサポートするサイトの構築。〈安芸〉

(5) 事業者の強化と観光人材の育成

○KVCAと広域観光組織、市町村観光協会の位置関係や役割を明確化し、特に広域観光組織にはエリアマネジメントを期待。〈物部川、幡多、同友会〉

○国からの効果的な情報取得及び共有と有効的な財源確保のためのKVCAのDMO化。
〈仁淀川、幡多〉

○ガイドで生計が成り立つ仕組みづくりと、顧客の安全確保や楽しませる人材の確保・養成。
〈仁淀川、KVCA会員、同友会〉

(6) その他

○全体戦略の中で観光事業者が進むべき方向性を示してもらえたら、民間はより実行に移しやすくなる。〈同友会〉

○次期計画を示す際には、県民にも分かりやすい内容でモチベーションを高める（夢のある）見せ方をして欲しい。〈同友会〉

○アンケートでのマイナス意見を分析し、高知県の弱点を補うような施策。〈県民会議〉

【地産地消・地産外商戦略の展開】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	参加者数
高知県地産外商公社 理事会	R元. 5. 31	10名
公益社団法人高知貿易協会 理事会	R元. 6. 7	12名
土佐FBC倶楽部 総会	R元. 7. 13	42名
地産外商情報共有会議	R元. 8. 5	9名
		73名

1 現在の県産業振興計画の評価

〈全体〉

- 産業振興計画での取り組みの多くが実績を残している。〈食品関連事業者〉
- 産業振興計画のおかげで、事業が継続できている。次の計画でも小規模事業者に対する支援を継続して欲しい。〈食品加工事業者〉
- 県も公社も一生懸命やっていただいております、マイナスの意見は特にない。〈地域商社〉
- 土佐MBAや弥太郎商人塾、FBCなど、教育に力を入れられ、高知県の食品産業のレベルは大変向上したと実感している。〈地域商社〉
- 年度を重ねるごとに新たな取り組みにチャレンジされていて感心する。〈金融機関〉

〈外商〉

- 地産外商公社は、外商の手助けという意味で凄く頑張っている。〈商工関係団体〉
- 展示会等の外商機会を得ることができ、大変助かっている。〈食品加工事業者〉
- 高知の商品の販売促進、企業へのサポート等、あらゆる面に取り組んでおり、その成果が出ていると思う。今後もさらに強力なサポートをお願いしたい。〈金融機関〉
- フェアやイベント等単発のものではなく、産地招へい型の外商活動を増やしてきたのは正解だと思う。〈水産関連団体〉
- 海外について知らないことが多く、貿易促進コーディネーターには大変支援して頂いている。〈食品関連事業者〉

2 県産業振興計画の次のステージに望むこと

〈国内外商〉

- 近年の地産外商公社の成果を数字で見ると、少し横ばい傾向になってきたが、地道に頑張り商品の魅力を増やすことが大切。〈林業関係団体〉
- 高知県や地産外商公社とどのような形で連携をとるのが、「とさのさと」の今後の取り組みを大きく左右する。今後も積極的に提案したいので協力をお願いしたい。〈農業関係団体〉
- まるごと高知への来店者数が減少傾向にあるので、新規顧客の獲得に努めてほしい。〈金融機関〉
- 関東方面は、アンテナショップも活用し、かなり販路が広がった。物流の面からも関西に優位性があると感じているので、関西でも同じような仕組みで取り組んでいただきたい。〈食品加工事業者〉
- 首都圏に常駐して営業等を行う人材を、各地域商社で共有する仕組みが作れないか。現状、地産外商公社が担っている部分ではあるが、将来的には民間がビジネスとして行えるようになること

が重要だと思う。〈地域商社〉

○他県との連携による商談会やフェアの開催ができないか。お客さんがどうしても固定する。他県や銀行も情報を持っていると思う。〈地域商社〉

○高知県産品データベースには県内事業者が商品を登録して、県や公社主催の商談会に活用されているが、発展形として、民間の流通サービスを参考に検討を進めてみてはどうか。〈地域商社〉

○県や市町村、商工会、銀行など、色々な機関が商談会を実施し、商談会が増加している。あまり増えて、各メーカーの力が削がれないように、県が交通整理することも必要ではないか。

〈地域商社〉

〈輸出〉

○輸出に力を入れて欲しい。特に中国は伸びしろがある。香港に「おきゃく」のようなアンテナレストランを作り、高知の食を世界にアピールして、観光にもつなげて欲しい。〈地域商社〉

○梱包作業を行う設備が県内になく、高知新港ではなく他港（神戸）から出ている貨物がある。県内で梱包を行う仕組みを構築し、高知新港の利用を増やす取り組みも必要。〈港湾関連事業者〉

〈地産〉

○県内で対応できない製造があるので、何とか県内で対応できるようにして欲しい。〈地域商社〉

○食材の機能性を分析したり、高知の食材を学ぶためのキッチンスペースが欲しい。

〈食品加工事業者〉

○IoTやAIなどデジタル化の進展の中で、人間の役割が抑えられていくが、その対応には相應の時間がかかる。企業がデジタル化に向けて役立つ事例等の情報提供をいただき、手遅れにならない対応ができるよう支援して欲しい。〈ものづくり関連事業者〉

○地域での消費（域内消費）を増やすため、観光とのかけ算の取り組みを期待する。

〈食品関連事業者〉

○SDGsの視点。パッケージは、プラから脱却する動きが加速すると思う。多くの商品がこの対応に追われると考える。〈食品関連事業者〉

3 その他

〈新たに盛り込むべき項目〉

○昨今、高知県内にも外国人が増えてきて、また市内には外国人対応の窓口もできた。このような状況下に対応するため、外国人に働きかけていく取り組み（物販部門でのインバウンド対応、外商部門での輸出対応）を強化してほしい。〈商工関連団体〉

【移住促進による地域と経済の活性化】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）		
		市町村	産業団体等	計
①移住促進・人材確保センター理事会	R元.5.29		9	9
②市町村情報交換会	R元.5.31	48		48
③移住促進・人材確保センター社員総会	R元.6.17	22	9	31
計		70	18	88

1 地域の現状と課題の確認

(1) 各産業分野での担い手確保の取り組みについて

- まず農業をやってみようとする人にはハードルを下げ、興味を持っていただけるように支援をしていきたい。〈産業団体〉
- 県外から林業に興味のある人を連れてきたいが、最初は仕事にいいイメージを持ってきてくても、長続きしないことが多い。〈産業団体〉
- 今年、漁業就業支援センターを設立し、移住・就職フェアなどにも参加している。30代～40代の独立型の人が多いが、研修期間が1年で短いのが課題。2年は必要。また、定置網は人材不足が著しいが、比較的高齢でも働くことができ、研修期間も1年で仕事が覚えられるため、フェアなどで告知を行っていく。このままでは定置網はほとんどが外国人実習生になる。〈産業団体〉
- 毎月30の業界団体から景況調査をしている。卸売業、製造業、運輸業は人手不足と高齢化が深刻。特に運輸のドライバー不足には打つ手がない。〈産業団体〉
- 福祉人材センターで例年就職イベントを開催しているが、今年は「高知ふくし機器展」を合同開催する。求職者が減っていることをふまえ、機器展に会場したお客様に向けて、福祉業に理解をしてもらいたい。〈産業団体〉
- Uターン、Iターンの促進も必要だが、そもそも地域に残ってもらえるようにできないか。〈産業団体〉

(2) 受入体制の取り組みについて

- （市町村での）就職支援が不足していると感じる。農林業は他部署と連携して斡旋ができるが、就職についてはハローワークの案内のみとなる。〈市町村〉
- 使える空き家が少ない。あっても広すぎたり、単身用の空き家が少ない。空き家バンクもすぐ埋まる。〈市町村〉

2 現在の県産業振興計画の評価

(1) 移住促進の取り組みについて

- オール高知での移住促進の取り組みが進んでいる。

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 人材誘致の取り組みについて

- 企業誘致などに関して、都市部の企業が思うような人材マッチングができないという声を聞く。県が人材も一緒に連れてきてくれるような支援やテレワークなどの働き方も考えてほしい。〈産業団体〉
- 県、各業界とも束になってインターンシップでしっかり学生をつかまえる必要がある。

<産業団体>

○プロフェッショナル人材に期待したい。<産業団体>

(2) 住宅確保の取り組みについて

○使用されていない県職員住宅の賃貸について、もっと柔軟に対応してもらいたい。<市町村>

○住宅改修に対する支援をさらに手厚くしてもらいたい。<市町村>

○空き家バンクの登録物件の大半は改修費用が多額になるため、登録物件であれば優遇される支援がほしい。<市町村>

【担い手の育成・確保】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）				計
		県内高等教育機関	県内支援機関等	金融機関	業界団体・市民団体等	
①高知県産学官民連携センターコーディネーター会議	R元.6.20	6	—	—	1	7
②高知県産学官民情報共有ネットワーク会議	R元.7.16	6	9	4	5	24
アンケート回答（機関数）		(5)	(8)	(3)	(9)	(25)
計		12	9	4	6	31

1 地域の現状と課題の確認

（1）人材育成の取組についての現状と課題

- 地域や企業、産業団体等と連携し、社会人向けの県民開放授業や公開講座等を実施。産業団体等と連携して取り組むことで、交流促進などの相乗効果あり。〈①県内高等教育機関〉
- 経営に関する様々なセミナーを実施。〈②県内支援機関等〉
- 事業者の動機付けや意識の醸成が課題。〈②県内支援機関等〉
- 受講後、実践の場で活かしていくためのフォローアップが重要。支援側のスキル向上が課題。〈②県内支援機関等〉
- 中小零細企業では、研修に人を送り出したくてもなかなかその余裕がないのが現状。研修・セミナーの案内をしても、参加者数が少なかったり、参加しても企業間で温度差があったりする。反応のある企業は同じようなところであることが多い。〈②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等〉
- 若い世代に様々な研修を勧めても、あまり興味を示さない。〈②業界団体・市民団体等〉
- セミナーを受けてもその後につながらないことが多い。受講後、より次の行動につながるようなテーマ、仕組みや事前・事後の指導が重要。〈①県内高等教育機関、②業界団体・市民団体等〉
- 企業ニーズに応じ、研修・セミナーの開催や専門家紹介・派遣を実施。受講者間の横のつながりができ、その後の情報共有につながっているのは非常によい一方、事後のフォローアップの面で、担当者間での情報共有が十分でなく、改善の余地がある。〈②金融機関〉

2 現在の県産業振興計画の評価

（1）ココプラの人材育成の取組への評価

- 事業者の継続的発展に重要な内容について、基礎から実践的なものまで、分野ごとに体系的に幅広く学べる充実したカリキュラムである。〈①県内高等教育機関、②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等、②金融機関〉
- 経営における多角的な視点が得られ、新たな取り組みや今後の方向性を考える上で参考になる。〈②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等〉
- 同じような悩みや課題を抱えた受講者同士の、組織を超えた交流の場として非常に有意義。〈②県内支援機関等、②金融機関、②業界団体・市民団体等〉
- 若い経営者には、業種を超えた勉強をして欲しい。〈②業界団体・市民団体等〉
- オンラインで時間に制約されず学べる。〈②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等〉
- 県内で、この内容の講義を県内で無料又は定額受講料で受講できることは大変ありがたい。〈②業界団体・市民団体等〉

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 県内の産業人材育成のために必要なものや乗り越えるべき課題

【必要なもの】

- 各産業団体との連携の強化。〈①県内高等教育機関〉
- 県内企業等の課題を掘り起こし、その解決策をパッケージとして提案し関係機関につなぐことのできるコーディネート専門人材の育成。また、各機関が行う人材育成事業の情報の集約と体系立った学習テーマの提案。〈①県内高等教育機関〉
- 企業経営者の人材育成についての意識の醸成と投資。また育成する人材と時間の確保。
〈②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等、②金融機関〉
- 同業種や同規模の企業等、一定のかたまりでの人材育成の取組。〈②県内支援機関等〉
- 自ら興味を持って受講する意識の醸成。〈②業界団体・市民団体等〉
- 自社の状況や地域の特性を考え応用する力。〈②業界団体・市民団体等〉
- 地域間、産業間連携の強化と人的交流の促進。
〈①県内高等教育機関、②業界団体・市民団体等〉
- 世界を視野に入れた考え方や発想のできるグローバル人材の育成。〈①県内高等教育機関〉
〈②業界団体・市民団体等〉

【乗り越えるべき課題】

- 若者の県外流出を防ぎ、県内企業へ定着させる。〈②業界団体・市民団体等〉
- 人口減少と少子高齢化、高知市と高知市以外の二極化。〈②業界団体・市民団体等〉
- 人材の確保。〈②金融機関〉

(2) ココプラの人材育成の取組において強化すべきポイントや期待する内容

【レベルアップに向けて】

- 他県との競争を意識させる指標を使用した自己啓発の推進。〈①県内高等教育機関〉
- 全国の大企業で活躍する本県出身者による講義や講演。外部からの様々な視点が有用ではないか。〈①県内高等教育機関〉
- ワークショップやフィールドワークを取り入れた実践的な指導。〈①県内高等教育機関〉
- 受講者以外のニーズ調査に基づくカリキュラム設計。〈①県内高等教育機関〉
- 土佐MBA講座の対象者や対象者の所属企業規模等の明示。〈②業界団体・市民団体等〉
- 身近な成功事例の情報共有や受講者間の交流拡大。〈②金融機関〉

【裾野拡大に向けて】

- 人材育成の重要性の啓発活動。人材育成に課題を感じていない小規模事業者も一定数存在する。〈①県内高等教育機関〉
- 事業者の状況に応じて講座を体系的に組み合わせ、人材育成プランとして提言・助言や相談対応のできるコーディネーターの充実と体制の構築。〈②県内支援機関等〉
- 人材育成を含めた様々な支援の、一定のパッケージ的な見せ方。学びから新規創業までつながっていく道筋が見えることができれば、学びやすい。〈②県内支援機関等〉
- 地域性や利便性の面から、各地域での講座の実施。〈②県内支援機関等、②金融機関〉
- 高知県で仕事をする意味ややりがい等を地道に伝えていく。〈②金融機関〉
- 各産業団体との連携強化による参加者の裾野拡大。団体との共同開催などによる、より効果的なアプローチ。〈①県内高等教育機関、②業界団体・市民団体等〉
- 情報発信の強化と県内企業に対する認知度アップ。
〈②県内支援機関等、②業界団体・市民団体等〉

【起業や新事業展開の促進】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等（参加人数）		計
		KSP 会員	市町村	
①市町村担当者会（県内全域）	R元.5.24	—	18	18
②アンケート回答者（市町村）	R元.5月下旬～6月中旬	—	5	5
③起業サロン会員（既起業者）	R元.5.19	6	—	6
④アンケート回答者（起業サロン会員）	R元.5月下旬～6月中旬	5	—	5
計		11	23	34

<市町村>

1 地域の現状と課題の確認

- 潜在的な起業希望者の掘り起こしが難しく、起業の絶対数が少ない。
- 町に相談に来るのは補助金がないか？というものが多い。（起業希望者は商工会へ行っている）
- ビジコンを開催しているが、ビジコンのアイデアから実際の起業までに乖離がある。
- 各所へつなぐ体制はできているものの、つなぐ段階まで辿りつく人が少ない。
- 商店街主催のマルシェはあるものの盛況ではなく、チャレンジショップも空きあり。
- こじんまりとしたビジネスモデルが多い。

2 個別の産業成長戦略に対する評価

- こうちスタートアップパークの取り組みを知っている市町村(15市町村回答)：7
- こうちスタートアップパークを起業の窓口として紹介している市町村(15市町村回答)：3
- 県が起業に力を入れているのはありがたい。
- 全体を通して取り組みについては素晴らしいし、条件が合えば使いやすい。
- 制度とニーズのギャップがあると感じる（中山間部にはスーパーがないため、移動型販売をしたという声はあるものの、県の補助金の対象に車両が入っておらず結果として断念するケースがある）。
- 市町村と県との間に起業に対する熱量にギャップがある。
- 起業希望者の掘り起こしが大きな課題だと思う（市町村は担当が2～3年で異動するという現状ではうまく事業を進めていくことが難しい）。
- 県の取り組み自体の認知度が低いので、金融機関や商工会経由の相談が多い。
- （こうちスタートアップパークのプログラムについて）メンターや講師陣の人的環境は十分評価できるが、資金的支援の度合いは市町村レベルと大して変わらないと思う。
- 全く伝手のない起業希望者に対する支援が薄いのではないか。

3 県の産業成長戦略として新たに展開すべき施策や強化すべき施策

(1) 全般

- （当該市町村では）起業は移住と密接に関係しているため、移住と足並みを揃え一緒になって行う施策や事業展開が必要。
- 県中心部以外での掘り起こしと継続的なサポート。
- 事業者（起業家）が相談しやすい環境の整備（敷居が高いと感じさせないような取り組み）。
- 起業時だけでなく、起業後の販路拡大に向けた資金的援助。

(2) 県と連携して行いたいもの、県に支援してもらいたいこと

- 起業すること自体が目的ではなく、起業後の継続支援が課題だと思う（高知は起業に対するハードルが高いので、先輩起業家や専門家との関係構築）。
- 地元企業や起業希望者、課題保有者とのマッチング。
- 講師やメンター、起業家等の紹介。
- 自治体事業等のバックアップ。
- 起業者の受け皿を各市町村で用意した上で、現在の移住コンシェルジュのように各市町村へ斡旋するなどの取り組み。
- 情報共有、広報による連携。

(3) 移住×起業の取り組み

- 都市圏でのプラットフォーム（人的も含む）の整備。
- 起業者の二段階移住化（自治体担当者の関心が低い場合に起業希望者が孤立する恐れがあるため）。
- 物件情報が分かる空き店舗バンクの整備。
- どこにどういった事業者がいてどのような商売があるのか、詳細な情報。
- 地域によって不足しているもの、過剰であるものの見える化。
- 移住しようとしている地域が求めている事業がなんなのかを把握できる仕組み。
- 高速インターネット環境の整備。
- 起業を検討する上での自治体のセールスポイントの掘り起こし。
- チャレンジショップを利用する際に、商店街に長年店を構えている人からアドバイスがもらえるような取り組み。

<起業サロン会員>

1 産学官民連携・起業推進課の取り組み（特にこうちスタートアップパーク）の評価

- 事業プランを固めることができた、判断材料になるので複数のメンターに話が聞けて良かった。
- 事業の大小が支援体制に影響しないため、サポートを利用しやすい。
- 成功事例が見えないので、プログラムの効果が不透明。
- KSB（こうちスタートアップベース）の情報は頻繁に入るが、KSP（こうちスタートアップパーク）の情報は比較的少ない。KSBとの棲み分けができていないと感じる。
- 支援メニューの使い方の詳細が分かりづらい。
- 間口は広いが敷居が低いとは感じられなかった。
- 自分が支援メニューのターゲットになっているのか分かりにくい。

2 起業や新事業展開の促進で県の産業成長戦略として新たに展開すべき施策や強化すべき施策

- 庁内別部署へのつなぎ。
- OMBAなど県がやっている他のプログラムの紹介。
- KSP参加者の報告会（同窓会）、SUPなどのプログラム参加者の現状を知るツール。
- 県が支援しすぎるのは良くない。

【産学官連携による力強い産業の基礎を築く】地域の団体・事業者との意見交換会概要

区分	実施日	地域団体等参加者数（人）				
		県内高等教育機関	県内支援機関等	金融機関	業界団体・市民団体等	計
①高知県産学官民連携センターコーディネーター会議	R元.6.20	6	—	—	1	7
②高知県産学官民情報共有ネットワーク会議	R元.7.16	6	9	4	5	24
アンケート回答（機関数）		(5)	(8)	(3)	(9)	(25)
計		12	9	4	6	31

1 地域の現状と課題の確認

（1）産学官民連携の取組についての現状

○連携の取組の成果を何に定めて、どのように測るか、が課題。成果の蓄積と評価方法の検討が必要。＜①県内高等教育機関＞

2 現在の県産業振興計画の評価

（1）ココブラで取り組む産学官民連携の取組への評価

○新しい情報を得る機会としての似業種交流会議、新たなアイデアを発想するための手法としてのアイデアソンやハッカソンの実施については、産学官民連携による新規事業の創出に寄与する。＜①県内高等教育機関②県内支援機関等、金融機関、業界団体・市民団体等＞

○新事業展開等の促進において、他の事業者や高等教育機関等から様々な意見や助言を得ることは有効。また、異なる地域や産業等、外部の考え方や意見、経験等は参考になる。＜②業界団体・市民団体等＞

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

（1）ココブラにおける取組において強化すべきポイントや期待する内容

○新事業創出や地域課題の解決に向けて、あらゆる世代、年齢層が集まり話し合う場づくり。＜①県内高等教育機関＞

○企業と高等教育機関との個別具体的なマッチングに繋がるような仕掛けの強化。＜①県内高等教育機関＞

○自ら（自組織）の成長だけでなく、魅力ある高知県づくりに何が必要で、それに対して自分たちがどう貢献できるか、を考えてもらうテーマやゼミがあっても良い。人と人、事業と事業とを結びつけて、結果的に自組織の新たな事業展開のヒントに繋がる、というのが理想。＜②業界団体・市民団体等＞

○ココブラの支援事例等の可能な範囲での情報開示。＜②金融機関＞

○新規創業に関し、アイデア出しから、計画づくり、実行支援、販路拡大、事業拡大などステージごとの各機関のサポートを、パッケージ化して見せることが必要ではないか。＜②県内支援機関等＞